

「福澤諭吉の東洋政略論を読む」

平 石 直 昭

二〇〇九年度の丸山眞男記念比較思想研究センターの読書会は、二〇一〇年三月一日、一〇日、一六日に三回にわたって開かれた。時間は午後二時から三時半である。主題は「福澤諭吉の東洋政略論を読む」で、講師は私がつとめた。応募者数は六七名で、抽選により三〇名が参加した（神戸など遠方から参加された方がいて恐縮した）。ほかに東京女子大学や丸山文庫の関係者がオブザーバーとして出席した。

今年度の読書会の狙いは、論壇などでとかく物議をかもしている福澤諭吉の「脱亜論」（明治十八年）がもつ歴史的意味を、早い時期からの彼の東洋政略論がどう展開されているか、その全体的な発展ないし変化の過程に位置づけることで理解しようとするにあった。「脱亜論」については、戦後いち早く遠山茂樹や服部之総がとりあげて、福澤を近代日本がたどった「脱亜入欧」路線の思想的先駆者、アジア侵略政策の元凶という見方を示した。この見方は一九六〇年前後に竹内好、岡義武らによっても採用され、その後橋川文三による研究史的な

跡づけや坂野潤治による政治史的観点からの批判をへて現在に至っている。近年は井田進也により、現行の福澤全集に収録されている『時事新報』社説のうち、どれを福澤作とみなしてよいかという資料批判の問題が提起され、問題は複雑さを増した。

「脱亜論」の趣旨は、アジア東方の悪友を謝絶し、今後は西洋諸国がアジアに対してとっているのと同じ態度でアジアに対して振舞うというにある。アジアへの絶縁宣言であり、それだけみれば「脱亜入欧」の主張といってもよい。ただ「亜」とは旧体制下のアジア、日本でいえば徳川政府下のような日本をさし、福澤はアジアが西洋に抗して独立を維持するには、日本が維新革命を遂行して蘇生したように、各国の改革派が旧体制を革命し新ネーションを建設することが必須と考えていた。つまり彼は日本の東洋政略として、革命されたアジアと連帯して西洋に抗する構想をもっており、「脱亜論」はその可能性が当面なくなつたという状況認識の下で書かれている（なお丸山眞男らが指摘

しているように「脱亜入欧」という言葉を福澤が使ったことはない。

この点で「脱亜論」が明治十八年三月に『時事新報』社説として発表されていることが重要である。それはこの論説の意味を理解するには、当時の時代状況との関連分析が不可欠なこと、さらにこの論説以前に福澤がどんな東洋政略論を構想し、それらと「脱亜論」とがどんな思想的関連にあるかを分析する必要があることを示している。そうした作業をぬきにして「脱亜論」だけで福澤の東洋政略論を理解すれば、部分によって全体を代表させる誤りに陥るからである。

以上のような理解にたつてこの読書会では、明治八年に公刊された福澤の名著『文明論之概略』から明治十八年の「脱亜論」にいたる十年間の福澤の東洋政略論と関連資料を時間的順序にしたがって読み、福澤によるその時々¹の状況認識と関連して、その論にどんな変化が見られるかを、論理内在的に明らかにしようとした。そうした文脈的な理解を通じて「脱亜論」についても、より正確な歴史的理解を得ようとしたわけである。

このため岩波書店刊の福澤全集や福澤書翰集から必要部分を抜粋し、読書会で音読する箇所を罫線で囲んだ資料集を作り、参加者に配布した。具体的には以下²のようである。『文明論之概略』、「亜細亞諸国との和戦は我榮辱に関するなきの説」、『通俗国権論』、「松田道之宛書翰」、『民情一新』、「小泉信吉・日原昌造宛書翰」、『時事小言』、「朝鮮の交際を論ず」、「支那国論に質問す」、「兵論」、「東洋の政略果して如何せん」、「朝鮮政略の急は我資金を彼に移用するに在り」などの三論

説、「外交論」、「日本の用終れり」と関連する「開鎖論」「宗教も亦西洋風に従はざるを得ず」など四論説、「輔車唇齒の古諺特むに足らず」、「脱亜論」、そして日清戦争期の「日清同盟到底行はる可らず」、「朝鮮の処分如何」である。A4用紙で七十枚になった。また別に鈴木栄樹氏によって紹介された田中不二麿宛の福澤書翰のコピーも配布した。

読書会では、当日分の資料の中から内容的に関連する複数箇所を参加者に音読してもらい、適宜質問し、その後それらの資料について、その内容、それらが書かれた際の背景事情、福澤の意図などについて解説を加え、一区切りついたらところで次の一連の資料に移るというやり方をとった。区切りのつけ方については省略するが、上記した観点から、福澤自身の東洋政略論が時代状況に対する彼の認識の変化と関連しつつ、どのような点で変化しているのか、その論理を跡づけるという点に注意して解説するように努めた。参加者の皆さんからは、質の高い質問や事後のお便り等を通じて温かい励ましを頂いた。心からお礼申しあげたい。また自分としては、解説用の原稿を準備するなかで、上記した井田氏の問題提起や、鈴木氏が紹介された福澤の田中宛書翰、「脱亜論」自体の位置づけ等をめぐり、考えを深めたり新しい発見をすることができた。とても喜んでいる。

齊藤洋子氏はじめ教育研究支援課の方々は、名簿や資料集の作成など面倒な事務万般を担って下さった。また比較思想研究センター長の安藤信廣先生は司会進行に当って下さった。厚くお礼申し上げます。

福澤諭吉の東洋政略論を読む

講師：平石直昭氏

(帝京大学教授)

- **ねらい**：福澤の「脱亜論」(明治18年)は、戦後日本の学界や論壇で、とかく物議をかもしてきました。アジアに対する近代日本の侵略路線を先駆けたものとされたからです。この読書会では、明治初年から「脱亜論」へといたる彼の軌跡をたどることで、福澤の東洋政略論が、単純な侵略論では片付かない点を明らかにしたいと思います。
- **テキスト**：「脱亜論」など、主題に関連する福澤の時事評論
(テキストのコピーは主催者が用意します)

○ **日 程**：

第1回：2010年3月 1日(月) 午後2時～3時30分
第2回： 3月10日(水) 〃
第3回： 3月16日(火) 〃

○ **場 所**： 7210教室(7号館2階)

○ **参 加 費**： 無料

○ **人 数**： 30人(申込多数の場合は抽選)

○ **申込方法**： 下記の申込書にご記入のうえ、2010年1月30日まで(当日消印有効)に教育研究支援課宛ご郵送ください。
2月上旬には結果通知はがきをお送りします。

○ **申込および問合せ先**： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学 教育研究支援課 電話 03-5382-6454

*下記にご記入いただいた個人情報、読書会の運営及び当センターの行事案内にのみ利用いたします。

----- キリトリ -----

丸山眞男記念比較思想研究センター読書会「福澤諭吉の東洋政略論を読む」 **参加申込書**

氏 名 _____

住 所 (〒 _____) _____

電話番号 _____